

が進みにくい様子だった。何かしら、共有するきっかけがほしい。鬼ごっこのように言語の必要ないコミュニケーションや遊びであると生き生きと楽しむことが出来る。中学生の側に、得意なことが一つでもあると違うのだろうと思った。

< 11月30日（年中児クラス） >

男子2名、女子3名の参加。9:00～10:40まで。10:20まで自由時間、以後集い。21日との違い、中学生が遊びの題材（的当てのボールと的）を持ち込む。

< 男子2名の様子 >

9:15 的当ての道具を提示

的当ての道具を提示する。子どもが投げて遊ぶがすぐやめる。とまどった様子で周囲を見て、女子のかかわり方をみて、女子に「やっぱりうまいね」と話しかける。



9:30 的当てからの発展

子どもが的当てに書いてあったポケモンの絵を描き始める。それを見て男子A「うまいね〜」。男子A、こんどはこれを描こうかと提案し、しばらく的当ての絵を描きながら関わりをする。



9:40 的当てからの発展

子どもが的当てのボールを女子（中学生）に投げ出す。男子B、冗談半分で「しっかり狙って投げないと」。子どもたちと男子B、打ち合わせしつつ、



関わりを深める。子どもたちが女子に向かって投げのを楽しみだす。女子に叱られやめるが、その後、子どもと一対一で関わりを深めていく。

<感想>

中学生主導の題材で使用方法は異なったにせよ関わりのきっかけが持てたようだった。ただ、参加するだけでなく、ある程度意図を持って参加することで受け身になることなく遊びや関わりが発展していくように思う。これに保育者も加わることでさらなる発展が見込めるような気がした。

第4章 中学生と乳幼児の交流が相互の発達に与える効果に関する研究

一乳幼児にも効果的な体験プログラムの立案一

1. はじめに

本研究は、高校で取り組まれている「保育体験」より早期の中学生から体系的に体験できるプログラムを作成することを目的としてきた。特に、従来の学校主導ではなく、保育現場の側から、将来の親となる生徒に期待する育児意識や知識を提供するという保育者主導型のプログラムを立案し実施するというのが特徴である。本年度の研究では、保育者主導型の保育体験プログラムに参加した保育士の意識の変容を、一般的な保育士と比較することで、明らかにすることを目的とする。課題となっていた保育体験を通じて乳幼児への発達の寄与となるような保育体験の体系的プログラムを図ることも目的とする。

これまでの研究では、中学生の保育体験の事前学習が必要性はもちろんのことであるが、乳幼児への効果については十分な検討がなされてこなかった。

従来の保育体験実践では、学校サイドが主導となり、家庭科などの時間でわずかに事前指導をおこなうだけで、保育現場との綿密な連絡や保育者による事前指導がないまま、漠然と進められているのが現状であった。また体験の評価がないままに、定式的な生徒と乳幼児との交流の場に終わってしまう場合も多かった。一方、体験の場となった保育所、幼稚園においては、「幼児が興奮しすぎる」「收拾がつかなくなる」「疲れてしまう」など、たんなるふれ合い体験に対して疑問の声も上がっている。保育体験をする生徒の多くが、「子どもの見方が変わった」、「再びこのような体験がしたい」、と感想を示していることを見ても、保育体験は明確な学習カリキュラムとして位置づける必要があるのではないかと考えられる。また受け入れの保育現場にとっても、乳幼児への影響を考慮し、乳幼児の発達に益するような受け入れ態勢を準備する必要がある。

本研究では、まず中学生の保育体験を受け入れている保育士の保育体験に対する意識を明らかにする。その次に、乳幼児への効果も考慮し中学生の保育体験を積極的に受け入れている保育園での実践を紹介しながら、中学生の保育体験に対する保育士の意識について明らかにする。以上を踏まえて、保育体験を通じて乳幼児への発達の寄与となるような保育体験の体系的プログラムを図る。

2. 研究の方法

中学生の保育体験を受け入れている一般の保育士の保育体験に対する意識を明らかにするために、H県の保育士200名を対象にアンケートを実施した。その次に、乳幼児への効果も考慮し中学生の保育体験を積極的に受け入れている保育園で中学生の保育体験に対する保育士の意識についてアンケートを実施し（38名）、比較検討する。これにより中学生の保育体験が乳幼児にとっても効果的になるための方策について明らかにする。以下アンケートの例を示す。

中学生の保育体験に関するアンケート

このアンケートは全国各地で行われている中学生の保育体験（中高生が保育所幼稚園を訪問し乳幼児とふれあい体験をする）についてうかがうものです。ご協力宜しくお願いします。

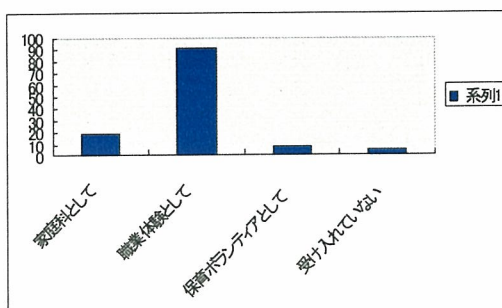
1. あなたの保育所（園）について教えてください。園児（42）人 職員（09）人
2. あなたの保育経験年数について教えてください。（12）年
3. あなたの保育所（園）では中学生の保育体験を受け入れていますか？（○を付けて下さい）
 (①家庭科の授業として受け入れている ②職業体験として受け入れ ③保育ボランティアとして受け入れ ④受け入っていない)
4. 上記3で「受け入れていない」とお答えになった方にお聞きします。受け入れていない理由はなんですか？
 ()
5. 上記3で「受け入れている」とお答えになった方にお聞きします。中学校では、事前学習（幼児とは？保育所とは？）をして保育所（園）に来ていますか。
 (①しているようだ ②していない ③わからない)
6. 中学生の保育体験で中学生にとってプラスになることには何だと考えますか？
 (①いずれ親となることへの準備 ②幼児への思いやり ③親への感謝 ④発達の理解
 ⑤子育て支援 ⑥その他（幼児とのふれあい）)
7. 中学生の保育体験で乳幼児にプラスになることは何だと考えますか
 (①中学生へのあこがれや親しみ ②ダイナミックな遊び ③いろいろな人とのふれあい
 ⑤その他 ())
8. 一般に「中高生の保育体験は、保育所（園）にとって負担が大きい」といわれています。これを解決するために次のようなことについてのお考えを聞かせてください。
 ・事前学習、事後学習をしっかりとすべきだ (①そう思う ②そう思わない ③わからない)
 ・保育所（園）との連携をしっかりとすべきだ (①そう思う ②そう思わない ③わからない)
 ・保育士が授業で幼児について講義するのもよい (①そう思う ②そう思わない ③わからない)
 ・体験参加の人数を少なくすべきだ (①そう思う ②そう思わない ③わからない)
 ・「いずれ子どもを持つ親としても自覚」をさせるべきだ (①そう思う ②そう思わない ③わからない)
 ・幼児も中学校へ行って授業を参加するなどよい (①そう思う ②そう思わない ③わからない)
 ・「危険」についての認識を高めてから体験をする (①そう思う ②そう思わない ③わからない)
9. これまでのご経験から、中学生の保育体験での記憶に残るエピソードを教えてください。

最初とふれ合うきっかけ（言葉かけや子どもたちの中に入っていく）がわからなくて戸惑っている姿を見る。
 慣れてくると遊んでいるが、人間関係の子といることが多い。
 期間が2日間くらいで、内容がすくつまめないのではないかと疑問に思う。

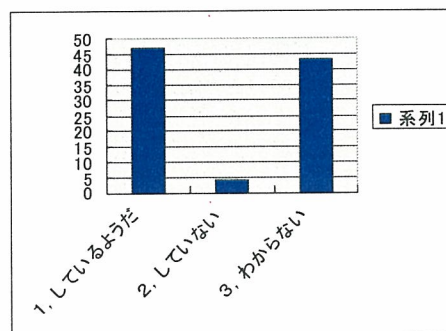
(1) H県保育士に対する中学生の保育体験アンケート

①保育体験の実際について

Q,あなたの保育所では中学生の保育体験を受け入れていますか？



事前学習をして保育所に来ていますか？

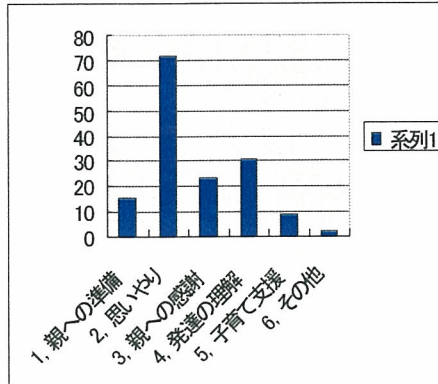


ほとんどの保育所においては、「職業体験」として中学生の保育体験を実施していた。これについては、ほとんどの地域で類似の似たような報告がされており、今回の結果もそれを超えるものではない。

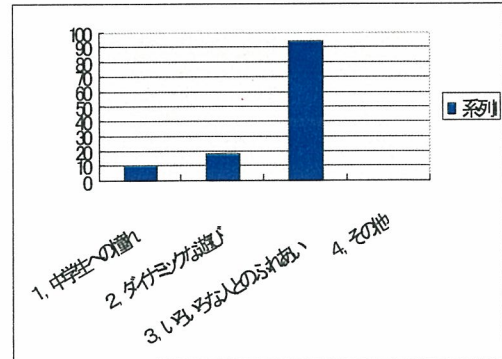
また事前学習についても、中学校での実態の把握が保育所においてできていない（「わからない」）ということが明らかになった。保育体験の実績数は増えたとしても実際のところ連携が希薄であることを意味している。

②保育体験の「効果」について

中学生にとってプラスになることは何だと考えますか？



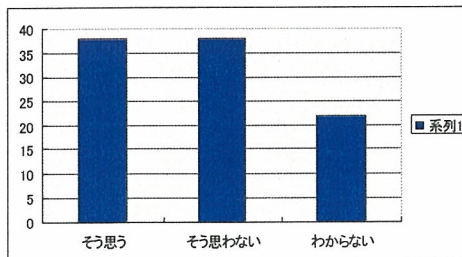
乳幼児にとってプラスになることは何だと考えますか？



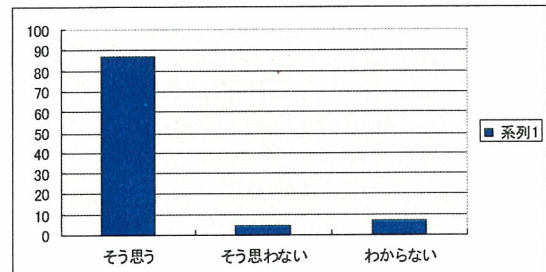
中学生の保育体験が、中学生にとってプラスになることは「思いやり」が多くを占め、その次に「発達の理解」「子育て支援」が続く。一方、乳幼児にとってプラスになることは「いろいろな人とのふれあい」であった。保育士が保育体験で乳幼児とかかわる中学生をたんにいろいろな人のなかの「ひとつ」と考えているところに、保育体験こそがもつ有意義性を保育所や保育士が自覚していないことの表れであると考えられる。いろいろな人のなかの中学生ではなく、中学生だからこそ得られるような体験の質について議論する必要がある。

①保育体験に望まれること

保育体験の参加人数を減らすべき



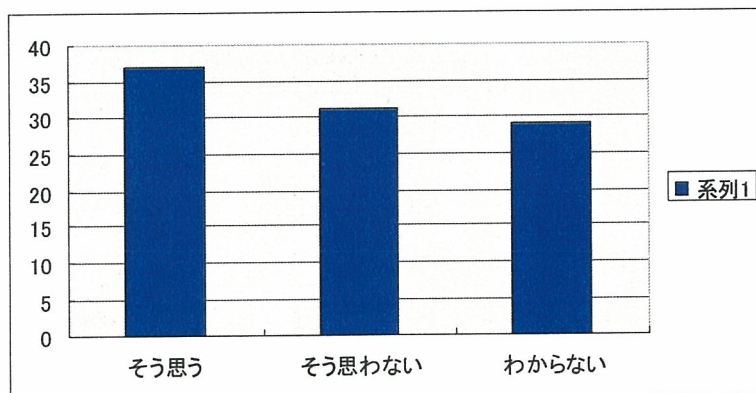
「危険」についての認識を高めてから体験をすべき



対象とした保育所保育園では近隣の中学校・高等学校からの保育体験の要請が近年増加しており、それぞれについて十分検討できていないのが実需であろうと考えられる。保育実践の場としては、受け入れ中学生の数についても「多い」と感じているところもあり、そのためこれも面積が限られている保育施設の中で十分に「危険」についての認識がないと深刻な問題を引き起こすことが危惧されている。

保育体験の内容については、たんに乳幼児とのふれあいというだけでなく、「いずれ子どもを持つという自覚をうながすべき」という子育て支援と結びつけることも望まれている。今回のアンケートについても、保育士の中で中学生の親準備性について意識が高いことが見て取れる。

いずれ子どもを持つという 自覚をうながすべき



保育士による自由記述「記憶に残るエピソード」

- ・来たときと帰るときの表情が全く違う。生き生きとした表情になる。

- ・しばらくしてからまた保育園に遊びにきてくれたこと。
- ・「オムツはね～」と保育士がやってみせようとする、中2の男の子「しつと～」と言ってサッサッと布オムツを上手に替えた。「すご～い」「なんで～」男の子は恥ずかし顔で「2歳の弟でした」と、とても優しい顔で話してくれた。
- ・とにかく若いので体を動かして子ども達と一緒におもいっきりあそんでくれた。
- ・少しつっぱっていた男子が(友達に誘われて参加していたが) 終える頃には実に良い笑顔になりました。そのときは職員も大喜び！！
- ・あまり身構えすぎないことが負担感をなくせると思います。
- ・不登校の子が職場体験に2日間やってきた。2日とも休まず来てくれた。他の中学生とはあまり接していなかったが、子どもとはよく遊んでくれた。
- ・掃除などを嫌そうにしたり、言葉遣いや食事のマナー(食べる時立っている。座り方が悪かったりする。服装もいまいち！！ずんだれている(だらしない)。あいさつができない！！
- ・畑の囲いをこわして、年長児に「先生には言わんでね」とお願いして、こわしたことを秘密にする。
- ・給食中、子どもと同じように好き嫌いをした。「私、嫌いなんでのこします・・・」
- ・子どもがお兄ちゃん・お姉ちゃんと嬉しそうに声をかけているのに、全く反応してくれない子がいる(手をはらいのける子など)。
- ・子どもとふれあうというより、ただ仲良しの友達と話しに来ている感じがする。態度が

悪いので、あまり職場体験にはきてほしくないのが本音です・・・

(2) 乳幼児への効果も考慮し中学生の保育体験を積極的に受け入れているS保育園での、 中学生の保育体験に対する保育士の意識について

① S保育園の中学生保育体験について

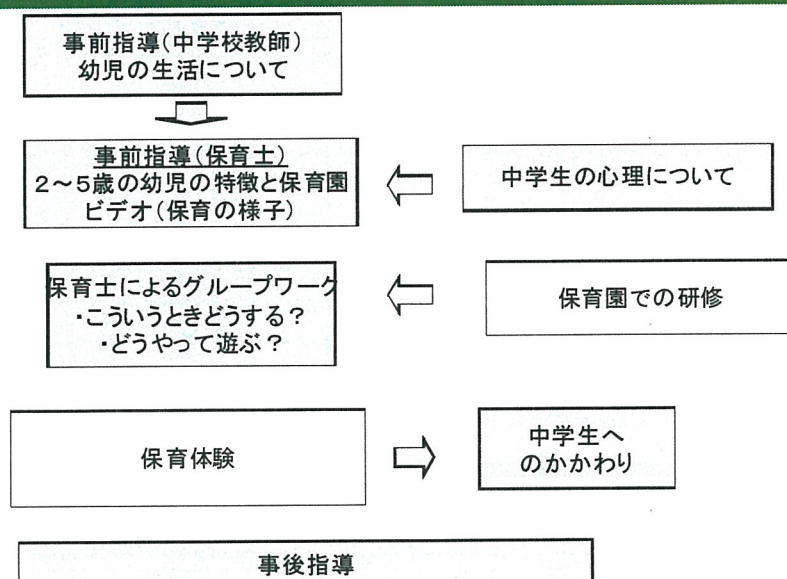
併設の地域子育て支援センターが主導して、乳児（0 - 1歳児は除く）から就学前児までのクラスを対象に、平成9年より受け入れを開始している。地域には、中学校が2校、高等学校が1校あり、それぞれ保育体験をS保育園にて実施している。S保育園では当初は、計画も不十分なまま保育体験が実施されることが少なくなく、「幼児が興奮しすぎる」「収拾がつかなくなる」「疲れてしまう」など、たんなるふれ合い体験に対して疑問の声も上がっていた。そこで担当の地域子育て支援センターの職員と協働で、乳幼児、中学生双方に効果的な保育体験となるようなプログラムの構築のための聞きとり調査を実施した。そのなかで「中学生が何を考えているのかわからない」「中学生にどうこえかけしていいのかわからない」「中学生が怖い」というような声が保育士から上がった。乳幼児のための保育体験の効果がプラスになるためには、受け入れる保育所の保育士が中学生の行動や心理などについてほとんど知らないと言うことが明らかになった。

また保育体験の際にも保育士は、これまで乳幼児のための効果的な体験という側面を考えていたものはほとんどなく、多くはケガなどの問題がなく終わればよいと考えていた。

以上のことを考慮して、S保育園では中学生を受け入れるにあたって、①中学生の心理と行動に関する知識を得て、②保育体験のための保育士の関心を高めるためにグループワークを実施してきた。このような乳幼児への影響を考慮した実践を行っている保育園と、一般的な保育園で中学生を定期的に受け入れてきた保育士との意識を明らかにすることで、乳幼児、中学生双方に効果的な保育体験プログラムの内容の提案が可能になると考え

る。

研究の方法



S 保育園の中学生の保育体験受け入れの際の体制

S 保育園保育士に提示した「中学生の行動と心理」についての資料は下記のものである。

S保育園の先生方

○月△日に、D中学校の2年生が保育体験にきます。「このごろの中学生は何を考えているのかわからない」「中学生にどうこえをかけていいのか・・・」等々の声が聞かれましたので、中学生のお子さんを持つお母さんのコメントを読んでいただければと思います。

☆中学生の心理☆(中学生をもつお母さんのコメントです)

受験が終わり、中学生になると、思春期に入ります。(個人差はあります)小学生とは違い中学生になると環境、友達関係などが、がらっと変わります。特に私立の中学生の場合、公立の小学校の友達のほとんどは、地元の中学校に通われるので、入学したときは、知らない子供達の集まりとなります。

中には同じ進学塾で一緒だった子もいるようです。私の子供もそうでした。

私の場合、中学生はまだまだ子供だと思って、本当に大丈夫なの?友達できるのかしら?などと心配していましたが、こちらが思ってるほど中学生は子供ではないということを、わが子を通じて悟りました。

小学生の頃は、子供も親の意見を聞いたり、また何をするにも親任せなところもありますが、中学生になると少しずつですが、そうではなくなってきました。これも個人差はあると思います。

実際、長男と長女もそうでした。また、男の子、女の子ということでも、違いは出てきます。

☆中学生(思春期)の心理や行動(言動)

1.気持ちのコントロールができない

これは、自分で頭では「こうしないといけない」とわかってはいても、なかなかできなくて、感情のまま流されやすくなってしまったりします。

2. バランスが取れない

例えば、女の子の場合、お洒落にはすごく関心が出てきて、外見にはすごく拘るのに、見えない部分はいい加減になる。というようなアンバランスなところが見られたりします。また、同じ外見でも、服装にはすごく拘るのに、髪型は少々寝癖がついていても、気にしない。衛生面ではすごく気を遣うのに、栄養面ではいい加減になったり(好きなものしか食べない、外見を気にしてダイエットをする)など、その子によって表れ方はさまざまです。

3. 言動、態度、行動などが変わりやすくなる

親や周りの大人の知らないようなことを知ったり、今まで以上にできる事が増えるために、自信を持ったりする反面、自分の行動や態度などに自信が持てずに、考え方、態度、言動などが変わってきたりもします。今まで態度も言動も悪くはなかった子がいきなり、親を驚かすような品のない言葉や態度を取ったりもします。自分の意に沿わないことは、やってはいけないこととわかってはいても、やってしまうなど。

4. 心理の矛盾

自分のことを、人にもっと知ってほしいという気持ちと、心の中を知られるのを嫌がるという矛盾した状態が起きるなど。

5. 友人関係

友達との関係を今まで以上に大切に、親や先生よりも、信頼のできる友達に悩みを打ち明けたり、一緒に行動したりするようになる。

6. 身体と心の変化

中学生になると、見た目でもわかるように、身体の変化が出てきますし、また「自分はもう子供ではない」という自覚から、反抗的になったりするようになる。

7. 比較する、

人のことがすごく気になる反面、自分への関心も高まります。それによって、自分と人とを色々なことで、比較するようになります。中学生の時期は、良いこと、悪いこと、どちらにしても人生の中で一番色々な影響を受けます。また、あまりに急な変化で周りの人も驚かさ

れることが多く、親も悩みが多くなると思います。しかし、動揺したりすることはあっても、子供の前では、できるだけそういう態度を見せないで、しっかりと見守ってあげてください。そして、子供に親はいつもあなたの見方だからと、言葉でも態度でもいいので、伝えてあげてください。それだけで、子供の心理は安定します。

私も、長女の時は驚くことばかりで、日々悩んでいました。今、笑って話していたかと思うと、一分後には急に怒り出したり、無口になったり、泣いたり色々でした。

どう接しているのかわからずに、思いのまま子供にぶつかって、失敗したこともたくさんあります。中学生には中学生らしい接し方があります。小学生の時は親の言うとおりにしてきた事も、中学生になると、そうではなくなってきました。

押し付けられたり、感情的に叱ったりするのも逆効果です。私は、子供が無口になっているときは、無理に話かけませんでした。話かけたこともありましたが、こういうときはそっとしてほしいのだと悟り、見守ることにしました。

「何か考えてるんだろうな～」くらいに思っていると、いいと思います。しかし、そこで終わらずにそっと見えてあげてください。また聞けるのであれば、何かの時に「黙って何考えてたの?」くらいは言ってもいいと思います。

それだけで、子供は、「私(僕)のこと心配してくれてたんだ～」と思って安心します。

親は見えてくると・・・それで、「何もない」と子供が言った場合は「そう?それならいいけれど、何かあったのかって心配したわ」くらいで終わっておいて、深く突っ込まないほうが、望ましいとおもいます。

また、急に訳もなく怒り出したりすることもありました。こちらには訳がわからず、いったい何が原因?そんなことで?と思うような事も、子供にとってはすごく大きいことなのです。私は何度か、「どうして、そんなことでそこまで怒るの?」と言ったことがあります。でも、これは家の子には逆効果で、余計に怒りは増すばかりでした。考えましたね～。どうしたらいいのだろう??と・・・そのとき私は、ふっと自分の中学生の時のことを思い出しました。

そうすると、答えが自然と出てきたのです。自分は親に叱られたりしたときの不満や、して欲しかったと

きのことを・・・すぐに、私は子供の部屋に行き、「少しだけ、話したいの。入ってもいいかな？」って聞くと、「なに?いいけど」と答えが返ってきました。

そして、約2時間くらいでしょうか?ゆっくりと話をし、私の気持ちや考えはこうなんだけれど、どう思う?など、すべて答えは子供に出すように促していきました。

そうすることで、自分の考え方を認めてもらっていると感じたり、どうしてもだめな事はだめだと再認識したりするものだと思います。例を出せば、キリがありませんが、

親や周りの大人が自分の考えや意見を押し付けるのではなく、子供が今何を思ってるのか聞いてあげてから、お互いに話をしていくと、子供も少しずつ打ち解けて行ってくれると思います。

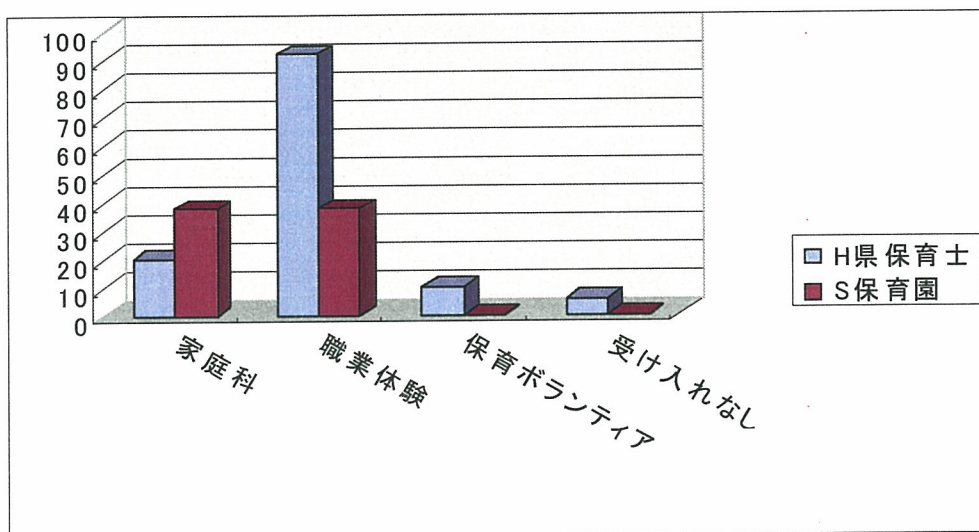
これは、私の考えで私の経験からの話ですが、わが子は今では、一時に比べるととても明るくなり、聞いたことも色々話してくれるようになりました。多感なこの時期は、周りの人がまず、中学生という子供の心理などをよく理解した上で、接してあげることで、変わってくると思います。

②対象と方法

対象となったのは S 保育園（「保育体験」実践研究園）の 38 名の保育士と、H 県保育士 113 名であった。H 県保育士は、同県の保育士研修の際にアンケートの記述を依頼した（回収率 85 %）。

③中学生受け入れの状況について

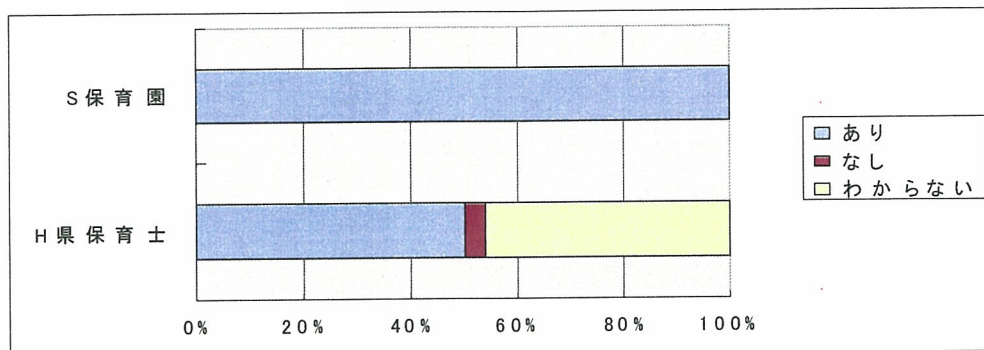
保育体験の受け入れの形式



ほとんどの保育園では、職業体験として受け入れている場合が多い。S 保育園の場合はこれまでの経緯もあり、家庭科の授業「子どもの発達」の実習として受け入れている。S 保育園には家庭科授業の一環として保育園を訪問したあとで、再度職業体験として訪問する生徒が少ない。このような適切な教育的な配慮があれば、授業だけの体験でなく、職業選択の上でも有効であることを示すものである。

④事後・事前指導について

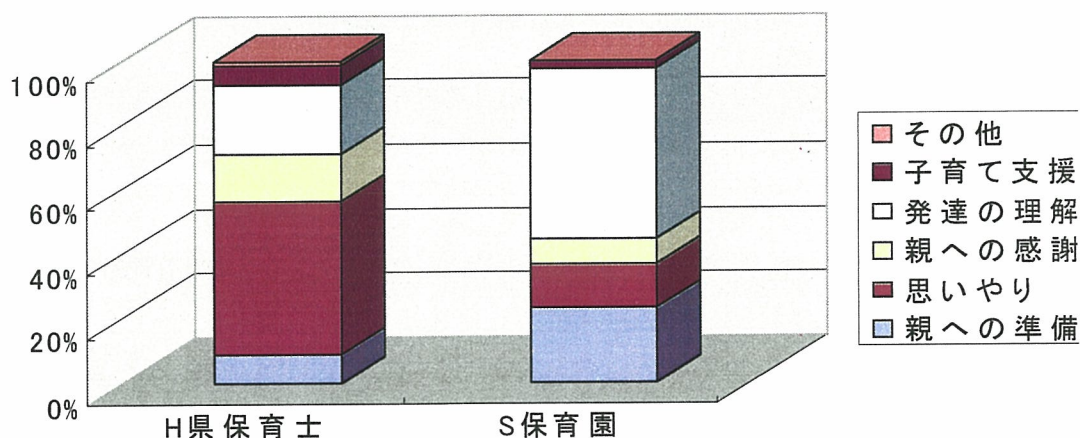
事前・事後学習の有無



保育体験において事前・事後指導の必要性と有用性については多くの実践や研究が明らかにしているところである。とはいえ多く保育所では、その実際が中学校の方から知らされておらず、もちろんS保育園のように保育士も主導的に関わるということはほとんどないといえよう。このような点から見ても、一方的に中学校主導でなされる保育体験において、保育士は負担感が増すことが少なくないということが推察される。

⑤中学生の保育体験の意義について

「保育体験」の中学生の意義



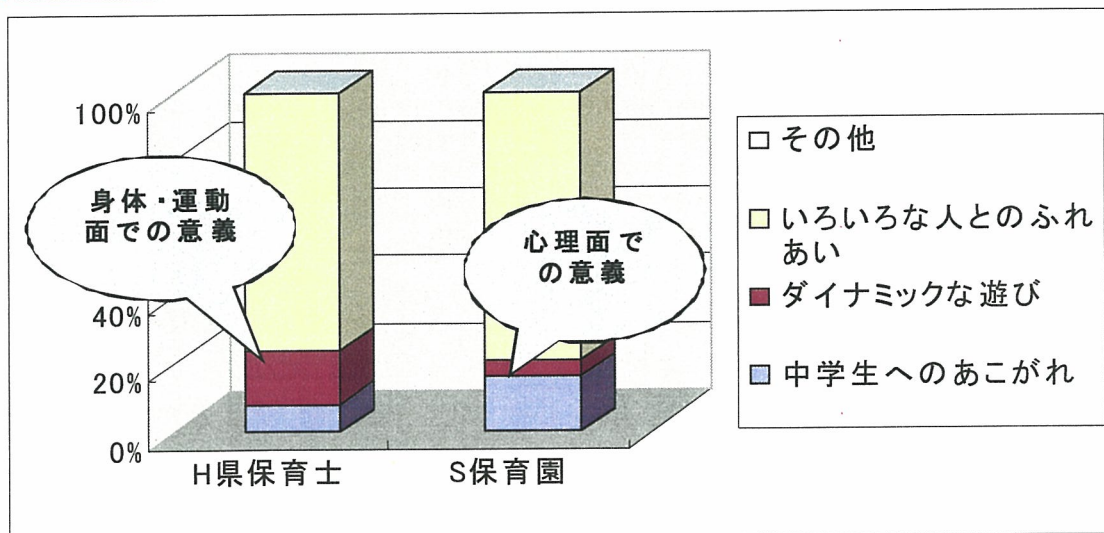
受け入れ体制の整っているS保育園では、保育体験の中学生の意義を「子どもの発達への理解」と「親への準備」としており、ほとんどが「若年児へのおもいやり」としていた一般保育士とは明らかに異なっていた。小長井（1996）によれば思春期の保育体験学習の問題点として、一部の生徒だけが対象であること、その体験が保育学習へとつながっていないことが挙げられている。

伊藤（2006）は学校教育という制度のなかで、必修科目である家庭科で実施される保育体験学習は、共通に子どもとの触れ合いの機会を与えることができることから、非常に重要な役割を担っているとす。これまでの保育体験学習の教育的効果についても、子どもの発達に関する理解を高めることや、思いやりなど情意的・感情的領域など意識面に肯定的な変容をもたらすことは明らかにされており、本研究の変化もそれを踏襲するものとなった。S保育園の場合、それに加え「親への準備」という視点が高いことは興味深い。

S保育園については、子育て支援センターの担当者が主導的に中学生受け入れについて関わっており、園内においても保育士の中で子育て支援の一環という意識が少なからずあるのではないかと推察される。

⑥乳幼児への保育体験の意義

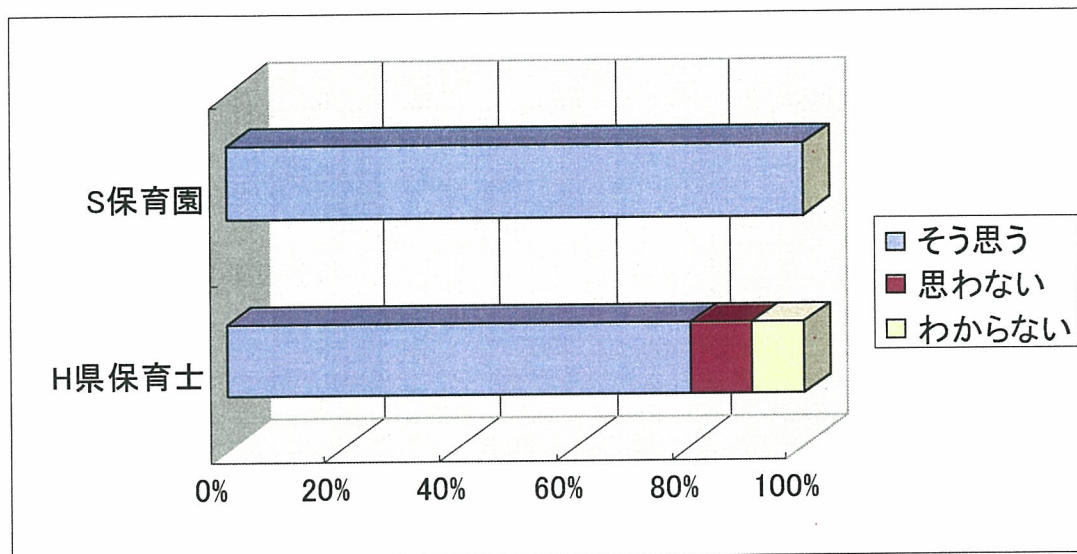
「保育体験」の乳幼児の意義



中学生の保育体験が、乳幼児に及ぼす効果について尋ねたのがこの項目である。これまで中学生の保育体験は、保育体験を通じて中学生の心理・情緒的側面に対する効果については多くの研究が論じているが、乳幼児への発達への寄与についてはほとんど無い。これは保育体験に見られるような「一時的な接触」で発達に及ぼすような効果や機能を実証的に明らかにすることは困難であるし、またそのような指標も無い。しかし、異なった世代の子どもが出会い、ふれあうことで、発達に寄与するためには一方的な関係（一方が他方の発達のための”材料”になるといった）ではありえない。そこで本研究では、中学生の保育体験の実践を重ね、体系的なプログラムを実践している S 保育園の保育士に、その意義についてアンケートにより探索的に尋ねるという手法をとった。

その結果、比較対象とした一般的な保育所の保育士では、まず「いろいろな人とのふれあい」がその意義のほとんどを占め、次に中学生とのダイナミックな遊びを通して「身体・運動面での（発達の）意義」があると回答していた。実践場面においても、男子中学生は特に園庭を走ったり、子どもを肩車したりするような、活動的な遊びに幼児を誘うことがよく観察されている。保育士もそのような場合はとくに安全について注意することもなく「傍観」する場面が観察されている。一方、S 保育園においては、「いろいろな人とのふれあい」も同様に高いが、中学生とふれあうことで幼児が中学生に対して「あこがれ」「期待」を抱き、「頼る」ようになり、心理的な結びつきができるということを答えていた。おそらく中学校側にはこのような幼児の心理的な期待については事前・事後学習においても知らされておらず、今後中学生の体験への心構えとして伝える必要があると考える。

事前・事後学習の必要性



保育体験の事前・事後学習の必要性についてはS保育所は全員が認めていた。一方で、一般の保育士の方はその意義を否定的にとらえていた者も10%ほどおり、周知徹底の必要性があると考えられる。